

## 国際化学肥料ニュース（2018年10月）

### 肥料業界の2018年10月動態

- \* 10月に入ってもリン安市況の好調が続いている。インドは CFR426~428 ドル/トンで中国から 36 万トン DAP を購入した。パキスタンも CFR433~435 ドル/トンでモロッコ OCP から 10 万トン、中国とオーストラリアから 8 万トン DAP を購入した。ブラジルはロシアの EuroChem から CFR455~459 ドル/トンで 1.5 万トン粒状 MAP を購入した。

一方、モロッコの OPC とエチオピアとの間に 62.5 万トン化成肥料の販売契約を締結し、パキスタンへの 10 万トン DAP を含め、10~11 月の生産量がほぼ販売済みである。

ただし、インドは 4~10 月にすでに約 500 万トン DAP、パキスタンも 170 万トン DAP を輸入した。したがって、来年 3 月まで南アジア地域での DAP 需要がほぼ一過した。ブラジル、アルゼンチン所在の南米地域は経済不調でリン安の需要が減退し、輸入が減少するだろうと推測される。11 月から DAP と MAP の国際価格が若干下がる見通しである。
- \* 9月7日、アフリカのガーナ政府はモロッコの OPC 社とガーナの肥料産業の振興に関する覚書を交えた。主な内容はモロッコの技術とリン資源を利用し、ガーナの天然ガスを原料にしてガーナに化学肥料工場を建設すること、モロッコの協力でガーナ国内に小売ネットを構築してモロッコ産廉価のリン酸肥料と化成肥料を農家に供給することである。
- \* カナダの Nutrien 社の CEO Chuck Magro 氏がニューヨークで開催された会議に化学肥料産業に好景気の波が来ていると発言した。窒素肥料がすでに供給緊迫の危機を呈し、尿素価格がこの数年間の最高値に達した。加里肥料は 2018 年の需要量も更新するだろう。2020~2022 年加里肥料の需給関係が非常に緊張な局面に陥るとも述べた。一方、Nutrien 社はブラジルの肥料メーカーを買収または合弁の形でブラジルに進出する考えも公表した。
- \* 9月27日告示、10月5日締め切ったインド MMTC 社の尿素入札は、15 社が応札した。応札数量約 175 万トン、応札された最低価格が CFR 東海岸 356 ドル/トン、CFR 西海岸 352.88 ドル/トンである。前回（7月25日公表、8月1日締切）の尿素入札より約 80 ドル/トン高くなって、今年の最高値を更新した。今回はアメリカからの圧力でイラン産尿素の応札を認めないため、残された選択肢が中国産と中東産しかない。

10月10日の最新情報によれば、インド側が55.8万トンを購入する予定で、そのうち中国産12万トン、中東産43.8万トンである。ただし、あまりにも高いため、入札自体を取り消す可能性がある。

また、10月15日の最新情報によれば、インド側は国内尿素不足でさらに19万トンの尿素を追加契約し、今回入札で計75万トン尿素を購入することになる。

- \* 10月7日のイラン報道によれば、トルクメニスタンとイランがトルクメニスタン産化学肥料を鉄道でイランを経由してインドに輸出することを合意した。今回合意の内容は、トルクメニスタン産化学肥料3万トンをイランのShahid Rajaei港からインドに輸出することである。トルクメニスタンは豊富な天然ガスと加里資源を有し、化学肥料産業の育成に力を入れた。2018年1～8月に76万トン化学肥料を生産し、22.64万トンを輸出した。
- \* 中国税関の最新データによれば、9月の中国化学肥料輸出量が46.3%増の238.5万トン、金額が85%増の7.42億ドル。その内訳は尿素19万トン、DAP83万トン。また、9月の中国化学肥料輸入量が50.5万トン、金額1.47億ドル。その内訳は塩化加里42万トン、NPK化成肥料7万トン。
- \* 10月7日、ヨルダンのAPC社が中国と2018年度塩化加里輸入基本契約を締結した。CFR 価格が290ドル/トン、9月に締結したベラルーシのBPC社と同一価格である。契約数量（オプション数量も含む）60万トン。
- \* 10月第1～2週はアメリカのリン酸肥料メーカー会議と中国国慶節休暇のため、リン安の取引が低調であった。この2週間のMAPとDAP取引量がただの15万トンで、最大の取引はモロッコOCP社がブラジルに5万トンMAPとヨーロッパに5万トンDAPの販売である。
- \* 10月第2週のリン安市況が振るわなかった。アメリカにオーストラリア産DAPとMAP5.5万トンとインドにサウジアラビア産DAP3.5万トンだけで、貿易量が9万トンしかなかった。市況を打開するため、中国産リン安が値下げを実行し、DAPの最新FOB 価格が410ドル/トンに下げた。
- \* 10月11日、インドとモロッコのOCP社との間に第4四半期の粗リン酸基準価格に関する交渉がフランスのパリで始まった。モロッコ側は生産コストの上昇とリン酸肥料の堅調な市況を理由に第4四半期の粗リン酸価格を30ドル/トン上げて、P2O5換算で788ドル/トンにするように要求した。

- \* インド IPL 社とロシアの PhosAgro 社が粗リン酸の輸入契約を締結した。2019～2021 年の 3 年間に PhosAgro 社が IPL 社に金額 10 億ドルの 200 万トン粗リン酸を提供する内容である。
- \* インドの尿素国際入札により尿素的国際価格が急速に上昇した。10 月 1～12 日の 2 週間だけで、各輸出国の FOB 価格が 15～20 ドル/トン上がった。10 月 22 日パキスタンが新に尿素的国際入札を行い、購入量が 10 万トン以上と予定している。また、インドが来年 1 月までにさらに 100 万トン尿素的を輸入する予定である。廉価のイラン産尿素的が国際市場から締め出されている現状では、年末まで尿素的国際価格が高止まりの見込みである。
- \* ブラジルと西ヨーロッパが粒状塩化加里の需要が高まっているため、塩化加里の供給が緊迫している。カナダの Nutrien 社がすでに 12 月以降の注文に対してすべて 25 ドル/トン値上げすることを表明した。アメリカの Mosaic 社も来年 2 月まで納品の新しい注文について 10 ドル/トンの値上げを実施する。
- \* ドイツの K+S 社はインドと 2018～2019 年度の塩化加里基本契約を締結した。CFR 価格 290 ドル/トン、8 月に締結したほかの大手メーカーと同じ価格である。供給量が 18.5 万トン。
- \* 中国国家统计局の最新データによれば、8 月中国の化学肥料生産量が 6.4%減の 453 万トン（100%N, P, K 換算）。その内訳は尿素的が 10%減の 199.4 万トン、リン酸肥料が 1.9%減の 114.8 万トン、加里肥料が 2.2%増の 51.8 万トン。  
1～8 月の化学肥料生産量が 6.3%減の 3701.5 万トン（100%N, P, K 換算）。その内訳は尿素的が 7.6%減の 1648.8 万トン、リン酸肥料が 5.1%減の 898.7 万トン、加里肥料が 3.1%増の 405.6 万トン。
- \* イスラエル OCL 社が中国と 2018 年度塩化加里基本契約を締結した。CFR 価格 290 ドル/トン、ほかの大手メーカーと同じ価格である。供給量が 90.5 万トン、他に 37.5 万トンを選択追加できる。また、イスラエル OCL 社もインド側と 2018～2019 年度塩化加里基本契約を締結した。CFR 価格 290 ドル/トン、ほかの大手メーカーと同じ価格である。供給量が 77.5 万トン。
- \* ヨルダンの APC 社が中国と 2018 年度塩化加里基本契約を締結した。CFR 価格 290 ドル/トン、供給量が 60 万トン、さらに数量を追加できるという条件である。

- \* 10月17日、カナダの Canpotex 社は、旺盛な加里肥料需要により 2018 年の塩化加里販売計画を前倒し完成し、手元にある注文数量はすでに 2019 年 1 月生産予定分まで完全に埋めたと発表した。
- \* インドとモロッコの OPC 社が第 4 四半期の粗りん酸価格に関する協議が新たな進展があった。双方が CFR 価格を第 3 四半期の 758 ドル/トンより 10 ドル上げて、768 ドル/トンにすることに同意した情報がある。
- \* 中国窒素肥料協会の統計データによれば、2017 年末現在、中国の尿素生産能力 7,417 万トン、2018 年新たに 2 ヶ所の生産ラインが稼働して、新規生産能力計 200 万トン増加したが、代わりに環境検査不合格により 1,040 万トンの生産能力が削減され、2018 年末には尿素有効生産能力が減少し、6,577 万トンになる見込みである。なお、2019 年上半期には新しい尿素生産ラインの竣工/稼働がない。  
 一方、2018 年 1~8 月の実生産量は、アンモニアが 5.4%減の 3,645.5 万トン、尿素が 8.1%減の 3,387.6 万トン。1~8 月の尿素消費量が 1%減の 3,312.9 万トン、硫安、塩安など窒素肥料を含むと、窒素肥料消費量が 3.84%減の 2,196.2 万トン (N 換算)、窒素肥料輸出量が 30.4%減の 263.5 万トン (N 換算)、輸入量が 49.4%増の 26.9 万トン (N 換算)。
- \* イラン税関の統計データによれば、1~9 月のイラン尿素輸出量が 33.2%増の 337 万トン、最高記録を更新した。しかし、アメリカによるイラン制裁で、9 月中旬からイラン産尿素の輸出が停滞している。10月5日に締め切ったインド MMTC 社の尿素入札では、イラン産尿素を完全に締め出された。ただし、アメリカ政府は 10 月末にイラン原油のインドへの輸出について制裁を除外する可能性があり、それに合わせて尿素の輸出が再開されるとのうわさがある。イラン産尿素の輸出が再開されれば、尿素の国際市況が下落する可能性がある。
- \* 2018 年 1~7 月の塩化加里輸入データ

国名	期間	輸入量	増減率
ベルギー	1~7 月	496,969 トン	3%
イタリア	1~7 月	211,115 トン	1%
オランダ	1~7 月	275,957 トン	-39%
ポーランド	1~7 月	508,682 トン	-14%
スペイン	1~7 月	423,890 トン	3%
フランス	1~8 月	334,385 トン	-2%

イギリス	1～8月	233,366 トン	-25%
韓国	1～9月	495,811 トン	0%

- \* 10月第3週のリン安市況が安定している。EU 地域にはリン安の需要が増えた。モロッコの OCP 社が EU に 16 万トン DAP を輸出し、FOB 価格が 450～455 ドル/トンである。また、OCP 社がさらに同じ価格で 7 万トン DAP を追加販売し、11 月船積みの予定。ロシアの EuroChem 社も FOB445～450 ドル/トンで EU に 6.5 万トン DAP を輸出した。

アジア地域ではパキスタンが中国から CFR 価格 430～433 ドル/トンで 2 船の DAP を輸入した。インドの動きがない。

南米ブラジルがモロッコの OCP 社から CFR458 ドル/トンで 5 万トン MAP、ロシアの EuroChem 社から CFR440 ドル/トンで 5,000 トン MAP の輸入を契約した。

- \* インドネシアの Petrokimia Gresik 社が行った塩化加里の国際入札で 40 万トン塩化加里を契約し、CFR 価格 315 ドル/トンである。大手加里メーカーはタイやベトナムに対しても年内の塩化加里 CFR 価格を 310～315 ドル/トンに引き上げる動きがある。

### 大手各社の営業業績

- \* モロッコの OCP 社が 1～6 月の業績を公表した。売上高が 15%増の 28.6 億ドル、そのうち化学肥料の売上が 21%増の 16 億ドル、リン酸塩（粗リン酸を含む）の売上が 17%増の 4.6 億ドル、リン鉱石の売上が 2.3%減の 5.3 億ドル。粗利益が 18%増の 19.2 億ドル、EBITDA（利払いと減価償却前利益）が 36%増の 8.62 億ドル。

1～6 月の化学肥料輸出量が 12%増の 440 万トン、特に MAP と DAP の輸出量が 260 万トンに達した。粗リン酸の輸出量が前年度並みである。リン鉱石採掘量が 10%増の 570 万トンである。

- \* ノルウェーの Yara 社は第 3 四半期の業績を公表した。化学肥料販売量が 9.8%増の EBITDA（利払いと減価償却前利益）が 16%増の 4.02 億ドル、純利益が 8.9%増の 9800 万ドル。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* 中国の青海塩湖工業は中化化学肥料社と覚書を交え、西オーストラリアの Goldphyre Resources 社が開発している Lake Wells 塩湖の硫酸加里プロジェクトから産出する硫酸加里の中国国内販売権の一部を中化化学肥料社に移す内容である。

中国の青海塩湖工業は Goldphyre Resources 社の依頼を受け、Lake Wells 塩湖に年間 5 万トン硫酸加里の精製工場を建設し、2020 年完成する計画である。工事代金は産

出する硫酸加里で支払う。中化化学肥料社は2020年1月から8年間このプロジェクトの硫酸加里の中国国内販売権の50%を青海塩湖工業から取得する。

- \* ベラルーシの **Belaruskali** 社は建設中の **Pietrykaw** 加里鉱山に新しい技術を導入することにより、生産能力が原設計の150万トン/年から220万トン/年に引き上げると発表した。当該プロジェクトが2015年から着工し、2019年完成する予定であるが、工事が遅れ、完成が2020年に先延ばされた。当該加里鉱山が完成されれば、ベラルーシの塩化加里生産能力が1450万トン/年になる。
- \* アメリカの **Crystal Peak Minerals** 社は太陽光を利用してユタ州にある **Sevier Playa** 塩湖の鹹水から硫酸加里を生産する計画を打ち上げた。2019年第4四半期から蒸発池と付属加工設備を建設し、2023年完成する予定である。完成後年間硫酸加里の生産能力33.7万トン、設計生産年限が30年間である。
- \* カナダの中国系 **Canada Golden Fortune Potash** 社が探鉱権を有する **Saskatchewan** 州 **Saskatoon** 市にある **KL280** 地域の最新探鉱報告を公表した。平均 **KCl** 含有量 **21.03%** 以上のシルビン資源量が **57.64** 億トン。すでに2017年から開発を始め、2020年完成する予定である。
- \* ベラルーシの **Slavkaliy** 社がミンスク州 **Lyuban** にある **Nezhinsky** 加里鉱山の開発を始めた。すでに1台目のボーリングマシンの設置を開始し、もう1台のボーリングマシンも来年設置する予定である。天然ガスパイプの敷設も始めた。**Nezhinsky** 加里鉱山の設計生産能力が200万トン塩化加里。**Slavkaliy** 社がベラルーシ2社目の加里メーカーである。
- \* イギリスの **Sirius Minerals** 社が開発しているノースヨーク郡にある **Polyhalite** プロジェクトは順調に進んでいる。当該プロジェクトはポリハライトを採掘し、粉砕したままの状態で加里肥料として販売する計画である。2018年着工、2020年から稼働開始し、最初は年間700万トン、完全完成後年間2000万トンポリハライトを採掘、販売する予定である。  
ポリハライト ( $3K_2SO_4 \cdot MgSO_4 \cdot 2CaSO_4 \cdot H_2O$ ) は加里と苦土を有する硫酸塩鉱物で、**K<sub>2</sub>O** 含有量 **15.6%**、硫酸加里の原料になるほか、そのまま粉砕して加里肥料にすることもできる。

## その他

- \* エジプト政府貿易と工業省の発表によれば、これから1年間、尿素の輸出関税がトン当たり125エジプトポンドから500エジプトポンド（約27.92ドル/トン）に引き上げる。輸出関税の引き上げ理由は、生産した窒素肥料を輸出ではなく、国内需給に優先すべきである。国内需要が満たされれば、輸出関税を撤廃する可能性があるとも述べた。
  
- \* ドイツのK+S社は旱魃の影響で、Werra川の水量が減少し、加里精製工場の稼働が制限され、一部の加里精製工場の稼働を停止させたと発表した。すでにWintershall工場（生産能力60万トン）が8月27日に停止した。降雨による水量の回復がなければ、Hattorf工場も近日に停止する予定である。また、Unterebreizbach工場も停止する可能性がある。工場停止により、加里肥料の減産量が数万～数10万トンに達する。
  
- \* ニュージーランドからの報道によれば、10月9日午前中、ニュージーランドクライストチャーチ市にあるRavensdown化学肥料工場に火事が発生した。数回の爆発もあった模様。ただし、人員の死傷がなく、すでに鎮火した。
  
- \* ドイツKassel地方委員会がK+S社のHattorf加里工場の残渣置き場の拡張申請を許可した。新たに許可された残渣置き場面積が約27ヘクタール、当該工場が排出する加里鉍石残渣の5～6年分を貯蔵できる。
  
- \* 南米コロンビアは一部肥料と農薬の輸入関税を完全撤廃する動きがある。農業大臣Juan Guillermo Zuluaga氏は、農家の負担を下げるため、硫安、硝安と硝酸石灰、尿素硝安液肥、殺虫剤など農業生産に欠かせない資材の輸入関税を完全に撤廃する必要があり、政府は税関および関税と国際貿易委員会と協議してから正式に法案を提出する用意があると述べた。